

愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2009年39週 (9月4週9/21~9/27)

愛知県感染症情報センター (愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

◇トピックス

新型インフルエンザ(A/H1N1)

集団かぜの発生について

RS ウイルス感染症

◇病原体検出情報

◇定点医療機関コメント

インフルエンザ、マイコプラズマ、感染性胃腸炎 等

◇全数把握感染症発生状況 ()内は件数。

結核(11)、腸管出血性大腸菌感染症(2)後天性免疫不全症候群(3)

◇名古屋市感染症情報(9月前半)

◇WHO 疫学週報抄記

○2009年9月4日 (84巻36号)

世界インフルエンザサーベイランス網近況

ポリオウイルス;野生株ワクチン由来株検出状況
メジナ虫届出数

○2009年9月11日 (84巻37号)

ポリオウイルス;野生株の実験室内封じこめ
西太平洋地域

世界のポリオ;届出数

オンコセルカ症;排除の可能性

感染症関連 WHO ウェブサイト

◇定点把握感染症報告数 (保健所別、年齢別)

○「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf> をご覧ください。

トピックス

◆新型インフルエンザ(A/H1N1)

○インフルエンザサーベイランス(図1)[注意報発令中]

愛知県全体の39週の定点当たり報告数は6.79、前週比1.2倍(1,121人→1,325人)です。

【参考ページ】

1. “インフルエンザ”注意報を発令します!(9月28日健康対策課発表)

<http://www.pref.aichi.jp/0000027441.html>

2. 保健所別・定点医療機関当たりのインフルエンザ報告数マップ

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/influ_map_new.html

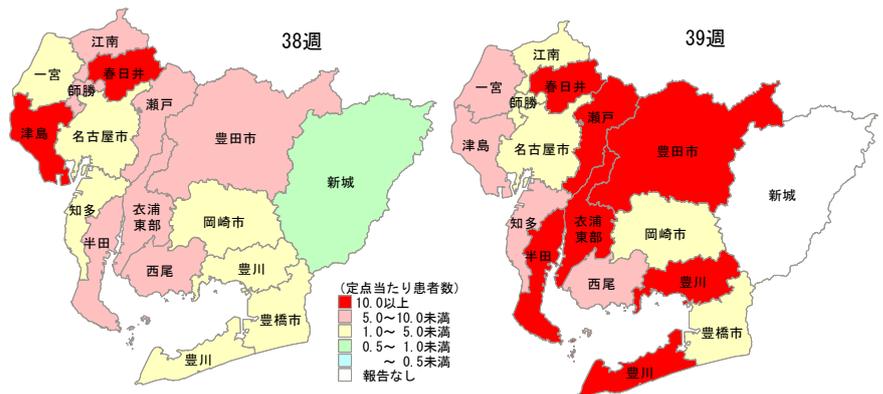


図1 保健所別インフルエンザ定点当たり報告数(38~39週)

○クラスターサーベイランス

(9月21日~27日報告分)

愛知県内での新型インフルエンザの集団感染が疑われる事例は179件でした。

【参考ページ】「愛知県内における新型インフルエンザの集団感染が疑われる事例の発生状況」

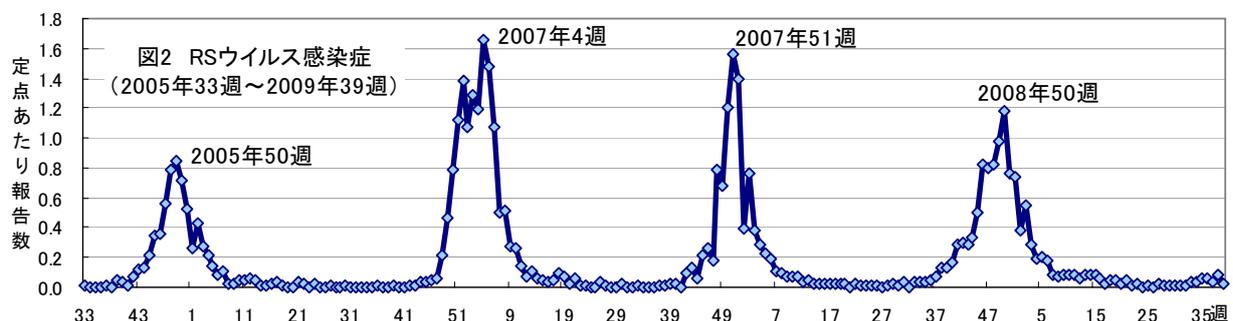
http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/new_inf2009_4.html

◆集団かぜの発生について(健康対策課発表)

	発表日	管轄保健所	ネットあいちURL
第17報	9月28日	豊川、一宮、江南、衣浦東部、津島、瀬戸、春日井	http://www.pref.aichi.jp/0000027464.html
第18報	9月29日	江南、瀬戸、西尾、衣浦東部、一宮、春日井、知多、津島	http://www.pref.aichi.jp/0000027504.html
第19報	9月30日	知多、豊川、瀬戸、一宮、津島、江南、師勝	http://www.pref.aichi.jp/0000027541.html

◆RS ウイルス感染症

39週の定点当たり報告数は0.02です。2007年、2008年は年末に報告数のピークがみられました。



病原体検出情報 ー平成 21 年疾患別ウイルス検出情報ー 9 月 30 日現在

インフルエンザは 2008/2009 シーズンの検査結果です。

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	インフルエンザ
患者数	182	26	67	16	37	19	12	338
PV-2	1							
PV-3	1							
CV-A6		5	14				1	
CV-A10	2	3	17	1				
CV-A16		1						
EV-71		4						
CV-A9						1		
CV-B3			1			1		
CV-B4						2		
E-9			3					
E-11							1	
E-18		1						
HPeV-1	1							
FluAH1pdm								35
FluAH1							1	126
FluAH3								49
FluB								28
Rota A G1	13							
Rota A G3	4							
NV-G I	1							
NV-G II	35							
SV	1							
AstV	1							
Ad-1	1		1	2				
Ad-2	4		2	1				
Ad-3				7	4			1
Ad-5				1				1
Ad-31	1							
Ad-41	1							
Ad-54				1				
検査中	13	3	8		11	6		49
陰性	103	9	21	3	22	9	9	50

略:ウイルス名(他の略名)

Ad : アデノウイルス

FluAH1 : A ン連型インフルエンザウイルス

NV : ノロウイルス

AstV : アストロウイルス

FluAH1pdm : 新型インフルエンザウイルス

PV : ポリオウイルス

CV : コクサッキーウイルス (Cox.)

FluAH3 : A 香港型インフルエンザウイルス

Rota A : A 群ロタウイルス

E : エコーウイルス

FluB : B 型インフルエンザウイルス

SV : サボウイルス

EV-71: エンテロウイルス 71 型

HPeV-1 : ヒトパレコウイルス 1 型

関連ページ

1) 「疾患別ウイルス検出情報」 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>

2) 「2008/09 シーズンインフルエンザウイルス分離・検出状況」

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infbunri08_09.html

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

- インフルエンザA型 2名
ヘルペス歯肉口内炎 2歳男
【一宮市 後藤小児科】
- マイコプラズマ感染症 2名
【一宮市 ささい小児科】
- マイコプラズマ感染症 1名
進行が遅い間質性肺炎患者(インフルエンザ
疑い)を大人、あるいは年長者でみとめます。
【一宮市 城後小児科】
- インフルエンザ71名(すべてA型) うち10
代が41名
【一宮市 一宮市立市民病院】
- マイコプラズマ肺炎 4歳男
【一宮市 野村整形外科】
- 病原性大腸菌O6 1歳女
インフルエンザB型 2歳女
インフルエンザA型 3歳と4歳の男
【稲沢市 こどものお医者さんおがわクリニック】
- マイコプラズマ様の気管支炎とメタニュー
モ様の咽頭炎が目立ちます。
アデノは減少してきました。
【犬山市 武内医院】
- インフルエンザA型1名(9歳女、奈良県に帰
省中に感染)。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
- A型インフル4例ありました。
【岩倉市 なかよしこどもクリニック】
- インフルエンザA 6名 4歳男、8歳女、14
歳女、17歳男、23歳女、38歳女
インフルエンザB 1名 13歳女
【春日町 丹羽医院】
- インフルエンザA 4名
【北名古屋市 田中クリニック】
- インフルエンザA型、6名。
【津島市 医療法人参育会加藤医院】

尾張東部地区

- インフルエンザA型3名。
その他ヘルパンギーナ、溶連菌感染症、突発疹等。
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
- キャンピロバクター腸炎+病原大腸菌(O74)
11歳女。
インフルエンザA型3名。
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
- インフルエンザA型激増しています。
【春日井市 春日井市民病院】
- A型インフルエンザ5例
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
- 休診していました。
インフルエンザA4例です。
【小牧市 志水こどもクリニック】
- 報告のインフルエンザはすべてA型です。
【春日井市 かがわこどもクリニック】
- インフルエンザA、高校1年生1名 4日前文
化祭で他校と交流。高校3年生1名。
【春日井市 竹内病院】
- 小児科はすべてA型インフルエンザです。
【小牧市 小牧市民病院】
- インフルエンザA型のみ
【半田市 半田市立半田病院】
- インフルエンザA 女20歳
【半田市 医療法人林医院】
- A型インフルエンザ 6名
【半田市 医療法人敬おっかわこどもクリニック】
- A型インフルエンザ 2名
【南知多町 医療法人大岩医院】
- インフルエンザ当院で調べた時は(-)で、翌
日他院で(+)の例1件あり。
【東海市 こいで内科医院】
- インフルエンザA型3名は同一家族(母・姉・弟)
【東海市 もしもしこどもクリニック】

西三河地区

- イムノエースFluA(+) 4名
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
- インフルエンザB型 1名
マイコプラズマ 5名
【豊田市 すくすくこどもクリニック】
- インフルエンザA型 2名
【豊田市 足助病院】
- インフルエンザは1例のみA型
【岡崎市 花田こどもクリニック】
- 特記すべきことはありません。
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
- インフルエンザA型 2名
【岡崎市 にいのみ小児科】
- 2歳男 マイコプラズマ肺炎
A型インフルエンザ 1名
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
- 5歳女 インフルエンザA型
【岡崎市 医療法人志貴こどもクリニック】
- インフルエンザA型 3名(8歳男、10歳男、
49歳女)
【岡崎市 栗屋医院】
- マイコ気管支炎2名(3歳、4歳)
インフルエンザはA型のみ
【刈谷市 田和小児科医院】
- インフルエンザA 13名
RSウイルス 2名(双子)
【知立市 宮谷クリニック】
- キャンピロバクター腸炎 3歳男
【西尾市 山岸クリニック】

東三河地区

- 8歳女 サルモネラO9
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
- インフルエンザ23件(+) A(22) B(1)
【豊川市 豊川市民病院】
- インフルA(+)救外9/22、9/27 A(+)1人
【蒲郡市 蒲郡市民病院】
- インフルエンザは2名ともA型です。
【豊川市 ささき小児科】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2009年9月30日現在

一～三類感染症

＜関連リンク＞ 届出基準 http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedeki_jun080512.pdf

● 結核（二類感染症）

報告保健所	2009年39週報告数			2009年累計(1～39週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	6	2		616	175	107
豊田市				66	17	14
豊橋市				45	11	4
岡崎市	1			34	11	6
一宮				98	28	15
瀬戸	1	1		106	34	16
半田				47	13	7
春日井	2	1		82	24	14
豊川				37	16	6
津島				71	15	6
西尾				28	7	6
江南	1	1		80	20	15
新城				12	4	2
知多				74	21	18
師勝				35	15	2
衣浦東部				89	25	18
合計	11	5	0	1,520	436	256

● 腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	江南	9歳	男	9/15	9/16	9/20	O157、VT1(+)VT2(+)
2	江南	26歳	男	9/9	9/13	9/21	O157、VT1(+)VT2(+)

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

● 後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	60歳	男	AIDS	性的接触	フィリピン
2	名古屋市	29歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
3	豊橋市	39歳	男	無症候性キャリア	性的接触	不明

久しぶりの本格的な雨で庭の植物たちが一息ついていきます。そろそろ秋蒔きの種の準備をしなくては。狭い庭ですので筆者はこの季節になると苦労します。スイートピーにして花を楽しもうか、えんどう豆にしておいしく食べようか。連作を嫌う彼らの世話も大変です。いつも貴重な情報を有難うございます。9月前半のまとめをお送りします。

名鉄病院福田先生からは外来でA型インフルエンザを散発的に認め(入院1名)、夏の間少しになっていたマイコプラズマ感染症が増加傾向で気管支炎・肺炎による入院が目立ち、RSウイルス感染症数名、ウイルス感染による喘息性気管支炎の入院増加、第二日赤岩佐先生からは8月末にいたインフルエンザが9月になって減少、中京病院柴田先生からは外来では発熱患者はあるがインフルエンザA陽性者は減少、入院患者ではサルモネラ腸炎が1例、仮性クループが少々あり、大同病院水野先生からは外来ではインフルエンザはぼつぼつであり増加しているという印象はなく、RSウイルス肺炎、マイコプラズマ肺炎などが目立ち、入院では細菌性・ウイルス性腸炎が多く、RSウイルス肺炎、マイコプラズマ肺炎で喘息合併例が増加してきた、とのお手紙でした。有難うございました。

2009年9月4日 (84巻36号) <http://www.who.int/wer/2009/wer8436/en/index.html>

☆ パンデミック新型インフルエンザA(H1N1)の世界インフルエンザサーベイランスネットワーク (GISN) : 検査室サーベイランスと対応。

<背景> 今回のパンデミー開始以降、WHOにより作られたGISNが情報交換、施策決定に大きく貢献している。GISNはWHO5WHO地域WHO協力センター(WHOCCs)、4基本的標準検査室(ERLs)、99ヶ国の128国立検査室が参加している。本報は最近のGISNの活動のまとめである。

1. 診断検査法 : 今日までに米CDCが開発したPCRキットが600を超える米国と世界のGISN参加検査室に配布。HI抗体テストキットを米国と25ヶ国の40検査室に配布。多くの他の検査室は新H1N1ウイルス検出と確認のためのリアルタイムPCR、従来のPCR、遺伝子配列決定プロトコール開発。WHOがこれらの活動支援。
2. 新パンデミックウイルスと季節性インフルエンザウイルスの混合流行監視 : インターネットによる報告網FluNetとWHOへの直接情報であるWHOCCsでデータ収集すると4月19日(17週)~8月1日(31週)に60,655検体がインフルエンザA陽性で35,585(56.7%)新型インフルエンザA(H1N1)陽性であった。季節性に対する新型の比率は17~31週で増加している(図あり)が、この時期流行している国全てからFluNetに報告が届いているわけではないので注意が必要である。8月1日までに119ヶ国8,042検体の臨床材料と2,000株のウイルス分離株がWHOCCsに分配され、8,062検体がテストされ6,153(76.3%)検体がインフル陽性、うち3,586(58.3%)検体が新型A、1,990(32.3%)検体が非新型A、577(9.4%)がB型であった。流行期に入った南半球諸国などで従来の季節型から新型への入れ替わりが目立っている(グラフあり)。

3. **パンデミック A(H1N1) ウイルスの進化監視**：抗原性と遺伝的特性。GISN による監視。8 月 1 日までに 56 ヶ国から 119 事例の搬入が WHO の資金で WHOCCs にて実施。全ての送付ウイルスは HI 反応による抗原性はフェレットの免疫抗体による交差反応で A/カリフォルニア/7/2009 と同一。遺伝子配列解析の結果から進化による他のインフルエンザウイルスとの新しい組換えは起っていないことも明らかになった。WHOCCs の血清疫学的研究から高齢者がいる程度の交差中和抗体をもつことが示唆されている。日本からの報告では 30 名の 72~103 歳(平均 83 歳)の高齢者の 40%が 40 歳未満の中和抗体を新型ウイルスに対して有しており、米国のデータでは 30 歳の小児青年ではほとんどないのに対し 60 歳以上の成人では約 1/3 に ≥ 80 の中和抗体が検出されている。最近の A/ブリスベーン 59/07 類似ウイルスを含む季節性インフルエンザワクチンによる交差反応による新型ウイルス防御は期待できない。
4. **抗ウイルス剤耐性監視**：GISN による監視が継続されている。一般的に言って新型ウイルスはアマンタジン・リマンタジンには耐性であるがオセルタミビルとザナミビルには感受性で、オセルタミビル耐性ウイルスが 12 株、カナダ、中国、デンマーク、香港、日本、シンガポール、米国で分離されているが、全ての例が典型的インフルエンザ症状の経過をとり完治、合併症なし。散発的で接触者に伝播はおこっていない。検索全株がザナミビル感受性。
5. **ワクチンウイルスと試薬開発**：a. 候補ワクチン株：抗原分析と遺伝子解析から 5 月 26 日、WHO は A/カリフォルニア/7/09 ウイルスをワクチン株として推奨。b. パンデミックワクチンウイルスと試薬開発：WHOCCs は関係機関、メーカーと共同で新型ワクチン候補として現在までに 10 種の組換えウイルス、4 種の野生株ウイルスを配布。試薬についても WHOERLs はメーカー共同開発中。
6. **情報交換**：WHO は GISN と共同、WHO ウェブサイト活用中。

☆ **ポリオ。野生株とワクチン由来ウイルスの世界検出状況。08 年 1 月~09 年 6 月。**

現在 97 ヶ国、144 検査室参加の世界ポリオ検査室ネットワークは 1988 年に WHO により設立され、急性弛緩性麻痺(AFP)材料などからのポリオウイルス分離を実施、野生株 (WPV) かワクチン由来株 (VDPV) かの同定、輸入野生株の由来、国内流行がないことの確認などでポリオ根絶作戦 (Polio Eradication Initiative) に大きく貢献している。本報は 08 年 1 月~09 年 6 月の概略である。

- (1) **検査の精度管理、新導入術式**：WHO は毎年、ネットワーク参加検査室の精度管理を実施。08 年にはより迅速なウイルス検出のための新術式導入精度管理実施。08 年には参加 144 中 136 (94%) 検査室が合格。報告期間に関しては WHO の 6 地域中西太平洋地域が「AFP 患者発症後 60 日以内に型内同定 ITD 報告」という目標に間に合わなかった (08 年、09 年の一覧表あり)。
- (2) **仕事量**：同時期、ネットワーク検査室は 247,794 の AFP 便材料を検査、14,260 株のポリオウイルス、46,462 株の非ポリオウイルス検出、前年同期の仕事量の 6%増。新術式導入で報告期間短縮、ITD 実施可能な検査室数増加。
- (3) **WPV 検出と伝播経路**：22 ヶ国の AFP 材料から 4,261 株の WPV 分離(表あり)。12 ヶ国は 1 型野生株 (WPV1) だけ、1 ヶ国は WPV3 だけ、9 ヶ国は WPV1 と WPV3 両方。アフリカ地域 17 ヶ国、東地中海地域 3 ヶ国、東南アジア地域 2 ヶ国。2 型 WPV はなかった。遺伝子解析による伝播経路研究の結果、05 年以降の流行 WPV4 系列だけで、ナイジェリア常在の西アフリカ B (WEAF-B) と呼ばれる WPV1 と WPV3、アフガニスタン、パキスタン、インド常在の南アジア (SOAS) と呼ばれる WPV1 と WPV3 で、この常在 4 ヶ国で世界の WPV 分離株の 83%を占めている。WEAF-B 系列陽性の非常在国は 14 ヶ国、SOAS 系列陽性の非常在国 3 ヶ国、両方陽性の国が 1 ヶ国となっている(一覧表あり)。アフリカ諸国の WPV 伝播はナイジェリアから WEAF-B が直接隣諸国へ、もしくはチャド、スーダンなどを經由して伝播、さらに東アフリカに伝播、一部はインド由来の SOAS 起源ウイルスがアンゴラへ伝播、アジアではインド由来の WPV1 がネパールに輸入、国内伝播をおこしている (アフリカの国名の羅列、略)。インドでは

SOAS 系列ウイルスがウタルプラデシュ、ビハール両州で常在、大都市ムンバイの下水からも分離されている。パキスタンとアフガニスタンでは国境の部族支配地域を中心に SOAS 系列ウイルス常在。

(4) ワクチン由来ポリオウイルス検出：AFP 患者から分離されたサービンワクチン類似 9,999 株の検索では 4.6%がワクチン由来伝播株 (circulating Vaccine Derived Poliovirus) であった。

☆Dracunculiasis (メジナ虫、ギニア虫) 例数報告。09 年 1 月～7 月。

常在国報告例数：スーダン 1,658、ガーナ 236、マリ 31、エチオピア 23。輸入例：ゼロ。

2009 年 9 月 11 日 (84 巻 37 号) <http://www.who.int/wer/2009/wer8437/en/index.html>

☆ ポリオウイルス。野生株の研究室・検査室 (以下ラボ) 内封じ込め。国立ラボ一覧完成。
08 年 12 月。西太平洋地域。

ポリオ野生株 (WPV) の流行が根絶された場合、感染性 WPV やウイルス材料が存続するのはラボ内だけとなる。08 年 5 月、世界保健会議は全ての WHO 加盟国に WHO 野生株封じ込め計画に従い第 1 相ラボ内封じ込め活動を依頼した。第 1 相活動は WPV を扱うラボ全てが対象で、西太平洋地域では 99～08 年の間に 37 ヶ国に 77,260 のラボ、08 年 1 相終了時に 45 ラボが WPV を保有していた。本報は当地域の封じ込め活動の概略である。第 1 相活動開始は 97 年、ガイドライン完成 99 年、以後各国の WPV 保有ラボ調査と不要 WPV の処分廃棄、生物学的安全レベル維持が勧告され、2000 年 10 月、西太平洋地域全域がポリオフリーと認定された時点で全加盟国は第 1 相活動を開始、06 年、第 1 相は膨大な数のラボを保有する中国と日本以外で完了。その後活動は進捗、08 年時点で WPV を保有しているラボ数は中国 27、日本 15、オーストラリア 2、韓国 1 となっている (完了国数と保有ラボ数のグラフ、保有の理由＝診断材料、研究教育用、資材用などと保有株数の一覧表あり)。

☆ ポリオ。09 年 8 月 18 日時点 WHO 報告数。

AFP 調査。野生株ポリオ患者数。09 年におけるポリオ確認患者数と野生株確認患者数国別一覧表。多い順にナイジェリア 487(野生株確認患者数 363)、インド 206(206)、スーダン 44(44)、パキスタン 35(35)、象牙海岸 24(24)、ベニン 20(20)、アンゴラ 19(19)、ケニア 17(17)、アフガニスタン 17(17)など。

☆ オンコセルカ症 (オ症)。排除可能性。

イベルメクチン投与によりオンコセルカ症が排除可能と 09 年 7 月 21 日、WHO は発表。これまで限られた地域で実施されていたイベルメクチンによるオ症排除の可能性をマリとセネガルの広い地域で履行、可能性立証。

(1) 伝播予防の年間治療：オ症は川沿いに発生するブヨが媒介する糸状虫症で、失明に至るので River blindness と呼ばれている。メルク社が開発したイベルメクチンの年 1 回ないし 2 回の内服で駆除可能。同社の寄付により無料でアフリカ 26 ヶ国で 6 千万人を超える人々 08 年に投与を受け、排除の可能性が確かめられた。

(2) さらに必要な研究：いつ中止するか。財源をどうするか、など。

☆ 感染症関連 WHO ウェブサイト一覧。

愛知県感染症情報

2009年39週(2009年9月21日～2009年9月27日)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	*インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																		
愛知県																							
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	52	17	4	1,325	7	46	287	72	24	2	61	0	39	61	0	3	0	0	6	0
総数 (名古屋市を除く)	125	112	24	37	12	2	1,051	6	31	180	62	12	2	46	0	19	47	0	2	0	0	6	0
名古屋市	70	70	11	15	5	2	274	1	15	107	10	12		15		20	14		1				
尾張東部 瀬戸	9	9	2	3	1		135		2	9	2			2		2	4					5	
海部津島 津島	7	7	2	2	1		60		8	44	3	1		4		2	3						
尾張中部 師勝	4	4	1	1			14			4	1						1						
尾張西部 一宮	16	12	3	4	1	2	98	1	6	13	4	2		4		1	2		1			1	
尾張北部 春日井	9	9	2	3	1		204	1	2	12	13			3		2	5						
	江南	6	6	1	2		8			16	3			6		3	2						
知多半島 半田	6	6	1	2	1		70		3	10	2			5			5						
	知多	7	7	2	2		61		1	12	5	1					1						
西三河南部 岡崎市	11	7	2	2	1		13				9	1		7		2	4						
	衣浦東部	13	13	2	4	1		141	1	1	17	6		4		1	4						
	西尾	5	5	1	2	1		35		1	8	3				1							
西三河北部 豊田市	9	9	2	4	1		97		3	7	2	1		2		3	7						
東三河南部 豊橋市	12	8	2	4	1		25		2	16	6	5	2	3		2	5						
	豊川	9	8	1	2	1		90	3	1	12	2	1		6		4		1				
東三河北部 新城	2	2			1				1		1												

*新型インフルエンザ(A/H1N1)を合わせた報告

愛知県感染症情報

2009年39週(2009年9月21日～2009年9月27日)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	*インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び 新型インフルエンザ等感染症を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
計	2	1,051	6	31	180	62	12	2	46	0	19	47	0	2	0	0	6	0
～6ヶ月					5	2			2									
～12ヶ月	1	1			24	3			24									
0歳																		
1歳	1	8	2	1	22	12	5		18		10							
2歳		18	1		20	12	1		1		3	7					2	
3歳		18	1	2	15	14	1		1		2	5					1	
4歳		16	2	4	13	6	3	2				17					3	
5歳		23		9	8	5					1	5						
6歳		26		4	5	2	1					8						
7歳		29		3	7	2	1					3						
8歳		36		1	10						1							
9歳		58		1	5	1												
5歳～9歳																		
10歳～14歳		353		4	18	3						1						
15歳～19歳		266			1						1							
20歳～				2	27						1	1						
20歳～29歳		92																
30歳～39歳		57																
40歳～49歳		31																
50歳～59歳		9												2				
60歳～69歳		6																
70歳～																		
70歳～79歳		3																
80歳以上		1																

*新型インフルエンザ(A/H1N1)を合わせた報告